

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産の理論領域における基礎科目として位置付ける必修科目である。助産学領域で適用される理論や根拠に基づいた助産実践を実証するための研究方法を学習し、助産学研究論文（事例研究）を行う。また、助産実践上の問題を明確にし、研究課題として発展させ助産実践に役立てることが科目の目標である。</p> <p>助産学研究についての基礎的内容・方法やクリティーク、研究テーマの設定を科目の前半に行い、実習において継続事例または受持ち事例から テーマに沿って事例研究をすすめ、実習終了後まとめを行う計画とした。 初回にオリエンテーションで説明し、前期からテーマを設定し、各自文献検索を進めるよう働きかける。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基礎的内容・方法を学習し、文献のクリティークを行った。事例研究は学内研究発表を行い、発表と研究レポート、及び関心意欲で評価した。全体評価は、77.6(±7.6)、うち、レポート評価 62・8/80点 発表7.2/10点 その他7.6/10点であった。 DP1-1知識理解では37.7 /45点、2-1、2-2思考判断29.5/40点、関心意欲10.4/15点 全体で77.6 (±7.6) であった。 自由記述「実習後の事例研究提出の期限が厳しかった」との意見があり、</p> <p>後半の重複する課題があり、大変であったと考える。学修準備性では、実習後にテーマが変わったり、文献検索ができていない学生もいた。学習到達度の自己評価では、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」が平均値3.3点で、その他の9項目は3.0～3.2点と低かった。学習量の評価も半数は予習・復習はしなかったと回答した。しかし、事例をまとめる時間は相当時間使ってまとめていた。しかし、学修のための情報利用や図書館、インターネット利用の項目には反映していなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p>
--	---------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題では、事例研究を行うことで、実際の継続事例から研究テーマについて深めることができ、研究計画書に留まらずまとめることができたことは評価できる。テーマの文献検討と考察が浅う学生もあり、課題を残した。卒後研究へ繋げることはできたと思われる。

授業の質評価において、5項目が3.0～3.2と低かった。科目が初回オリエンテーションが前期であり、研究発表が1月と期間が長い為、取り組み方に個人差があり、実習後慌ててまとめる学生もみられた。個別に教員が受持ち研究指導を行ったが課題が多く、内容の充実までにはいかないものもいたが、提出期限内に全員が提出できた。学生の意見として、「他の課題があり、時間がなかった」、「その他の課題に追われていた」との意見があり、他の講義課題との調整が必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

実際の事例からのケーススタディのまとめを行うことで、今後の研究に積極的に取り組む基礎的知識や思考判断がほぼできたと考える。助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基礎的内容・方法を理解し、文献のクリティーク、自己の継続受持ち妊産褥婦のケアについて研究的に取り組む、文献を基に考察を深め、事例研究として発表できた。達成度評価が低く、授業の質評価も低いため継続して個々の学生に合わせた関わりや授業計画が必要であると考え。学生の学修時間の確保の工夫については今後も継続して検討する。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通年を通して行う助産の理論領域における基礎科目として位置付ける必修科目である。キリスト教的人間観と性と生殖に関する倫理問題のアセスメントを行うために必要な知識について理解を深める。学習準備においては、チャペルで毎週多くのキリスト教精神について学ぶ機会をもつため、宗教的な捉え方と生命倫理としての性と生殖におけるカウンセリングの重要性や助産師の役割を学ぶ重要な科目として位置付けられる。受講動機は必須科目である(82%)、資格取得(18%)、であった。学生はチャペルの授業参加を楽しみにし、「いのち」に向き合う重要な時間としてとらえていた。チャペルでの学びから「キリスト教と生命倫理」につながっていくよう内容の工夫を行う必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	知識・理解DP1-1 45点、関心・意欲DP3-1 55点、合計100点で評価した。					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1-1 知識・理解について課題レポートの平均値39.4/45点 DP3-1関心・意欲についてレポート及び発表評価では 50.7/55点、全体で平均90.1(±3.7)であった。</p> <p>キリスト教的人間観と世界観の理解、生殖医療と生命倫理に対する考え方の理解、不妊カウンセリング、子どもの生死や障害の受容に対応する親の支援、倫理的見地からみた助産師の役割の理解の5項目を到達目標に挙げた。全員が性と生殖におけるカウンセリングの重要性や助産師の役割が説明できるレベルは到達した。生殖医療や胎児診断など生命倫理に対する考え方について深く理解する、性と生殖におけるカウンセリングの重要性や母子への支援、倫理的見地からみた助産師の役割が説明でき広く応用ができるについては、評価は難しいが点数からは64%が到達できていた。しかし、学習到達度の自己評価については、10項目の平均値は2.9～3.1と低い。自由記述では、「倫理について考え機会があつてよかった。内容が難しかった」と回答した。また、学習量の評価では、33%が予習・復習していたがレポート作成に関する復習や情報利用は授業評価には反映していなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性
--	--------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方 通年の科目であり、チャペル授業を前期から継続する中で、基礎実習を終えた後も継続する科目である。 実習を通して感じたキリスト教的人間観や講義・実習で学んだ倫理問題、全実習を通して学んだ倫理的感性の醸成や助産師の役割などを最終にディスカッションによる共有を行いことで達成することができたと考える。 達成目標をより効果的に行うために、授業計画をさらに検討していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

”いのち”に向き合う重要な科目であり、生命倫理についてより深く学ぶために授業計画を継続して見直していく。キリスト教の考え方を基盤にして専門科目や実習において生命倫理を深く考える機会となった。不妊治療という特別な支援を要する健康問題と助産師の役割や生殖医療に関する知識や専門性をより高める授業計画をさらに検討していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、技術試験・レポート・課題などの提出や自己学習を20%、期末試験80%で実施した。最終的な成績の平均値は79点であった。再試験対象者は0名でありほぼ全員が理想的レベルに達した。</p> <p>一方、学生アンケートから、目標の達成や的確な判断力を身につけたと実感できていた。予習復習の時間はほぼ一回であったが、他の科目の課題が重なっていたものの、看護基礎教育の臨床実習で経験しており、妊娠期や分娩期に比べると知識理解力や思考判断力はある程度身につけていたため自己の課題が明確であり、その解決に取り組みやすかったと考える。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は3点以上であった。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきたが、他の科目同様に、学生アンケートの自由記載には「時間がなかった」、「他教科の課題で精一杯だった」という意見が聞かれていた。集中講義であることが要因であるがそれでも、半数以上の学生が予習や復習を行っていた。今後も、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して学生にできるだけ負担なく効果的な講義を提供できるよう検討していく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機で選択率が高かった項目は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」30.0%であり、学生全員が受講している。本科目は助産の実践領域の専門科目であり、資格取得に必要な科目でもある。授業評価においてすべてのDP項目が該当することから、包括的な学習が求められる科目だと言える。</p> <p>・本科目の授業の運営方法はほとんどが演習であり、健康教育を行う際の企画書・指導案作成においては、昨年同様、担当教員を決めマンツーマンの形をとり学生と関わった。また、健康教育の企画書・指導案は実習を見据えて計画しているものがあり、実習の準備ができるよう演習内容を検討してすすめた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は80点であり、再試験対象者は0名であった。全員が標準レベルに達したが、理想レベルに達した学生は全体の43%であった。</p> <p>・学生の達成度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」について平均値が3.2点で最も高かったが、他の項目はすべて3.1点であり、差がないと言える。学生個々に対して目標が達成されているか理解できるようアドバイスする必要があると考える。また、学習量の評価として、27%の学生は「1回30分程度の準備をまったくしていなかった」、36%の学生が「1回30分程度の復習をまったくしていなかった」と答えている。演習の時間に学習の成果をプレゼンテーションする機会も多く、そのための準備や復習が必要であるため、再度周知させる必要がある。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性</p> <p>本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性</p> <p>学習到達度の自己評価の項目では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」など「知識・理解」に関する平均値(3.2)が高いが、他の項目についての平均値は3.1であり、ほとんど差がないと言える。特に「思考・判断」「技能・表現」に関する目標達成について、自己評価が低い学生へのアドバイス(評価を含む)が必要だと考える。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上より、達成度自己評価に関して課題が残るが、内容に関しては妥当であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、半分の学生が利用していなかった。健康教育の企画書や指導案作成・媒体作成にあたっては、知識や根拠が必要だが、テキストだけでなく、雑誌などの文献（新しい知識や現状を把握するため）も利用するよう文献の提示が必要かと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。点数的には全体的に達成できたと言えるものの、学生の目標達成度の差がなかった。すべてのDPを網羅している科目であり、包括的な学習が必要ではあるが、学習する過程において、健康教育を行う対象者の目標達成は常に評価しているが、学生自身が目標を達成したか否かでの視点についてアドバイス・支援が必要である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断ケア学Ⅶ	1	通年	必修	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産の実践領域における専門科目として位置付ける必修科目である。助産診断の基本的原理を理解し、助産の実践に必要な助産過程の展開について理解できるようシラバスについて初回に丁寧に説明を行う。実習で行う記録の基盤になるため看護過程を基礎に助産過程の基本的知識を押さえ事例による展開を行う。看護過程の理解度については総合看護学の中で把握し助産過程の進め方を考えるようにする。また、学生の助産過程の展開の状況をみて時間配分を考慮しながら行うよう教員にも周知し計画した。前年までの評価で助産診断指標の情報収集に時間がかかりアセスメントが不十分であったため記録用紙を簡素化し、アセスメントがかけられるよう工夫した。記録用紙の変更を行った。また、理解を深めるために教員の少数担当制にして個別相談を行いながら進める計画をした。学習到達度の自己評価では平均値3.5点であり積極的に取り組むことができた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP2-1, 2-2 思考・判断の平均値は、63.7点/80点 であり、全体で81.4 (±6.2)であった。達成目標の助産過程の基本的な考え方・助産過程のプロセスの理解ができた。妊娠・分娩・産褥・新生児の事例を通して対象をアセスメントし、助産診断・ケア計画立案の助産過程展開ができる。受け持ち事例の助産過程展開についてまとめと評価ができるについては、標準的レベルは全員が到達した。理想的レベルである対象の状態を統合して優先度を判断してケア計画を立案するまで達成したものは2名 (14%)のみであった。学修準備性では、半数以上がシラバス及びオリエンテーションで授業計画を立案し準備を行い取り組んでいた。学習到達度の自己評価では、全体的に平均値が3.1～3.5と低く時間的余裕がなくじっくり取り組むことができなかったとの意見が聞かれた。学習量の評価では、授業のみで記録時間の確保ができないため全員が自己の時間を使って展開していた。学修のための情報利用では、教科書、参考図書を使用して記録していたが授業評価の中には反映していなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に  
お示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し  
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、  
インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方についての自己評価及び改善課題

総合看護学で看護過程の理解度を把握した上で、前年度の課題であったアセスメント能力を高  
める工夫として記録用紙の簡素化等を行い実施した。また、助産診断の基本的知識を理解し、妊娠期、分娩期、産褥期・新生児期の助産診断の展開を  
行うため、発表等に要する時間を整理し学生の助産過程の展開にかかる時間を確保するよう変更した。アドバイスを学生の進捗状況に合わせ担当教員  
がかかわった。しかしアセスメント能力の向上につながったかは課題が残る。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

実習に使用する記録や受持ち事例のアセスメントに利用できるよう  
に細かくアセスメントができるよう支援を行った。しかし、他科目との課題の重複や知識不足からアセスメント力が弱く、また、一部積極性に欠け標  
準的レベルの到達に留まった。学生の積極性や思考判断力を高める工夫が課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産の実践領域の専門科目に位置づけられる。女性のライフサイクル各期における健康問題とケアについて学び、女性の生涯にわたる健康支援者としての助産師の役割を理解する。また、現代女性の支援を要するDV、不妊、性感染症の問題を理解し、家族計画、性教育についてはその概要を理解するなどの目標が達成できるようにシラバスの見直しと授業計画を見直した。</p> <p>①知識・理解に関して試験60点、レポート20点とし、関心・意欲については20点とし、レポート評価とする。</p> <p>②レポートは自己の身体を知りアセスメントをする、及び国際社会における支援活動について事前課題を提出し、授業に望むこととした。</p> <p>③シラバスに学生が達成すべき目標が広範囲のため、既習の母性看護（女性の身体のしくみ、ライフサイクル各期の看護）の復習を促した。予備知識や技能の欄に、助産の重要な専門科目であり、広い分野に応用できる内容であり、積極的な姿勢で取り組むよう明記し授業の開始時に説明することとした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は82.9 (±6.9)点であり、再試対象は0名であった。試験によるDP1-2,1-2の平均は44.4点/60点、レポートは38.4/40点であった。標準的レベルの「女性や家族の健康問題とケアについて助産師の役割が説明できる。」は達成できたが、理想的レベルの「現代女性が抱える健康問題について深く理解でき説明できる。女性や家族の健康問題とケアについて説明でき、広く応用できる。」は、14名中、5名(36%)であった。学修準備性では、他の授業課題が多くできなかつたと回答している。到達度自己評価では、「専門分野について、学びを深めたいという意識を持つことができた」、「専門分野の的確に判断する力を得た」、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得た」の3項目が平均値3.4と低く、その他の項目でも、3.1～3.3と低かった。授業の質評価においては、「口頭、文書などで学生の質問を受付それに答える機会がつけられていた」は平均3.4で最も高く、「説明は理解しやすかった」、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」、「説明は理解しやすかった」、等の平均が3.3(中央値3.0)であった。情報利用では、シラバスの記載を半数以上が参考にしていたが、主体的に授業計画を立て実施したものは半数以下であった。レポートは自己のB B Tを測定し、アセスメントする課題と国際社会での支援に関するレポートであったが、図書館利用やインターネット利用率は36%と低かった。全体的に積極性に向け、質問や意見も自ら行う学生が少なかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性</p> <p>健康やかな女性のライフサイクル支援をする専門科目であり、必須科目である。女性のライフサイクル各期における健康問題とケアについて、知識・理解及び関心・意欲をもつよう専門分野の教員が担当して講義を行うようにしたが、「他課題があった」「忙しかった」等の意見がみられた。実践的な専門科目を理解するための科目であり、この科目の位置づけを理解されていた。</p> <p>② D P、行動目標からみても内容的妥当性</p> <p>学生が達成すべき目標が広範囲のため、時間的余裕がなかったが、成績から見ると平均値は82.9 (±6.9)点であり、ほぼ理解ができていると思われる。しかし、到達度の自己評価はあまり高くはなかった(平均値3.1点～3.4 中央値各3.0)。助産別科のDP知識・理解の細項目には国際化社会における母子保健向上に関する知識の修得がある。新規に外部講師による「諸外国における女性の支援活動の実践」を取り入れて、到達すべき行動目標1～7について授業計画に沿って実施でき、内容的には妥当で</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試験60%、レポート40%で評価した。試験について各教員から出題して実施したが、次年度試験問題の内容と問題数等についても調整が必要である。専門分野の教員がオムニバス方式で実施した方法は 学生の関心のある内容であり、わかりやすかったと評価できる。レポートの一つは、自己のBBTを測定し、アセスメントする課題であったため、今後の健康教育の基本的な知識を身につける機会となり評価できる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生が達成すべき目標が広範囲であり、女性や家族の健康問題とケアについての助産師の役割が理解できる標準レベルは全員が達成していた。知識理解を試験とレポート評価で行ったが、効果的に目標達成できるよう、資料・説明のさらなる工夫を行っていく。授業方法も講義中心からディスカッションも加えて工夫していく必要がある。今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備ができるよう確認を行いながら実施したことでレポート作成においても計画的に行うことができたと思われる。到達目標に沿った達成度評価方法や割合も課題として検討していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	前期	必修	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産の実践領域における専門科目として位置付ける必修科目である。本科目では、病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身につけるため、助産管理の基本概念と管理のプロセス、病院と助産所における助産業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の助産ケア等について学習する。助産学実習における助産管理の学びにより科目の目標が達成するよう一部外部講師による専門的講義や助産管理に必要なガイドラインの概要や、事例からガイドラインを理解する内容へ一部工夫を行った。14コマ15コマに実際の助産師活動が行われている助産院の管理者から講義及びディスカッションを行いまとめを行う計画とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1-1知識・理解については試験で評価し、平均値59.4点/90点 レポート5/5点、DP3-1 関心・意欲については 5/5点、全体で69.4 (±10.1) 点であった。</p> <p>最高87点、最低56点であり、再試験対象は3名 (21%) であり、再試験には全員が合格した。80点以上の成績は、3名であった。今年度は、目標達成のための行動目標7項目については、試験評価を具体的な数値や名称等で解答を要求したため、正確に解答できなかったものが多かったと考える。これは、今年度模擬試験状況等を考慮して試験方法を決定した。学修準備性では、「助産管理実習の事前学習になった」、「教科書を再度学習した」等の意見があった。学習到達度の自己評価では、10項目の平均値は、3.2～3.5点 中央値すべて3.0点と低値であった。学習量の評価では、予習・復習を行ったものは少なく、一部全く行っていない学生もいた。学修のための情報利用は、シラバスの活用を行っていた。図書館、インターネット利用は少なく、教科書ガイドラインを用いて学習していた。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」、「学習の範囲や課題は明らかであった」、「口頭・文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」では、平均値各3.3（中央値3.0）で低かった。「説明は理解しやすかった」は3.2 中央値3.0 であり、よりわかりやすく講義を工夫することが課題として挙げられた。

学生の意見として、「他の課題があり、時間がなかった」との意見があり、授業内に到達目標の知識・理解ができるよう工夫が必要であると考え

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の到達目標は、知識理解について重要であるが試験の結果、平均値59.4点/90点と低値であり課題が残った。授業計画や教科書・ガイドラインを使って丁寧に説明していく。講義以外に演習を取り入れ事例を用いてガイドラインや基準を考察できるよう授業計画を立て行ったが、十分理解できるには達してなかった。また、時間内に課題に取り組めるよう自己学習やGワークする時間を工夫することで、学生の学びにゆとりをもって取り組めるよう工夫したい。助産管理について講義・演習・実習を通して助産師としての実践能力の基盤となる科目であるため内容や方法を継続して見直し、改善していく。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「必修科目である」72.5%、「資格取得に必要なものである」9.1%であり、「関心のある内容である」は0%と少ない割合となっている。本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。受講動機は、必修であることを全学生が理解しておらず、科目への関心も低いことがわかる。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	達成された

  

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、79.0 (85.8) 点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100 (100) %であり、内、理想的レベルに達した学生は、42.9 (86.7) %であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては82.7 (89.8) %、意欲関心に関しては72. (73) %、態度に関して81 (100) %であった。前年度( )内数値でみれるように、今年度は数値が低い状況がみられる。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、全員の学生が十分理解し、授業にも積極的に参加する状況がやや薄れている。消極的な授業参加の学生に対する改善が授業期間中難しい状況であった。</p> <p>そのため、学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.1～3.4となっている。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては9割、意欲関心に関しては7割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。しかし、意欲関心に関してが他項目から少し低い状況がみられるので検討する必要がある。地域母子保健の内容が母子保健行政や仕組みの理解だけに終わることが内容に、今後の課題及び展望を含めて、学生の意欲関心を高めることに努めたいと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義は3人の教員による展開となっているため、教員間における授業展開についても情報交換を綿密に実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。  
授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。  
従来、助産別科の学生は意欲的な授業の取り組み態度が見られていたが、今年度授業参加に消極的な学生がいることにより、授業の全体的成果が低い状況となっている。今後、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産の実践領域における支援科目として位置付ける選択科目である。助産師としての能力を育成するための幅広い分野応用できる知識・理解と関心・意欲を重視する。</p> <p>①4月前半に、直接助産師が行う子育て支援の方法とその実際について助産院を見学し、助産師の仕事や子育てのイメージを深めさせるよう計画した。 ②昨年に引き続いて子育て支援の現場である子育て支援サロンでの支援の実際に参加し学習を深める。 ③評価はレポートを中心に学生の知識理解及び、関心・意欲も評価する。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1-1レポート 平均値59.6/70点 DP3-1関心・意欲 18.0/20点、DP4-1 態度8.1/10、全体で85.7(±4.1)であった。到達すべき行動目標である、親役割と「親になる」ための適応・成長過程、親力・育児力を向上させるための親教育の支援、母子のコミュニケーションを通して母子関係を育む助産師の役割、北九州市子育て支援の実際についてをレポート及び講義への関心・意欲と態度で評価した。</p> <p>全体評価は、85.7(±4.1)であり、再試験対象者はいなかった。学習到達度の自己評価は、「職業倫理や行動規範について学んだ」平均値3.4(中央値 3.0)で全体に低く、その他の項目は3.1～3.3点であった。学習量の評価では、半数以上が予習・復習を1回以上したと回答した。レポート作成のためインターネット等を利用したものは4割と低かった。自由記述の意見では、「他の課題があった」「忙しかった」と評価している。レポート作成について情報収集等を行っているが、授業評価には反映されていない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自己評価及び改善課題

授業計画を一部見直し、次年度に反映させる。課題レポートについてもシラバスに示し、主体的に子育て支援について学ぶ姿勢を養っていく。

到達目標にあったDPを見直し中であり、達成度評価割合も検討していく。

授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.5（中央値5.0）と高かった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」及び、「口頭・文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」では、平均値各4.3（中央値5.0）であった。他の項目も3.9～4.1（各中央値4.0）であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門科目の基礎的位置づけとしての基礎科目であり、基礎的知識の形成については概ね達成できた。標準レベルにとどまり、理想的レベルに達したものが14名中3名（と少なかった。この課題については、後半実習が終了しレポートをまとめる時点で再度学習を強化していきたい。今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備はできるよう確認を行いながら実施したことは評価できる。